

塩尻市議会

議会基本条例推進委員会 交流部会事業

令和7年度議会報告会
報告書

塩尻市議会

令和8年4月28日

塩 尻 市 長

百 瀬 敬 様

塩尻市議会は、市民との対話を通じて市政の課題を把握し、議会活動に反映させることを目的として、令和7年度議会報告会を市内5地区で開催いたしました。

本報告書は、各地区のグループディスカッションにおいて住民から直接出された意見を整理し、市長をはじめ関係部局に報告するものです。今後の市政運営の参考資料として、ご活用いただきますようお願いいたします。

塩尻市議会 議長 赤羽 誠 治

令和7年度議会報告会 開催概要

地区名	期 日	会 場	内 容	参加 人数
洗馬地区	1月16日(金)	洗馬支所 大会議室	議会報告 ・使用料・手数料等の見直しについて ・公共施設整備計画の策定について ・学校給食費について グループディスカッション 共通テーマ 「地域公共交通について」	19名
片丘地区	1月16日(金)	片丘支所 2階多目的ホール		14名
塩尻東地区	1月19日(月)	塩尻東地区センター 多目的ホール		7名
広丘地区	1月20日(火)	えんてらす 101・102 会議室		6名
北小野地区	1月21日(水)	北小野地区センター 多目的ホール		28名

住民意見の集約

1 AI オンデマンドバス「のるーと」に関する意見

(1) 予約システムの格差と技術的ハードル

【指摘事項】

- スマートフォンによる予約は 24 時間対応であるのに対し、電話予約は 9 時から 17 時に限定されており、朝間や夜間の予約ができない点で不公平である
- スマートフォンの操作が困難であり、説明会に参加できない高齢者が利用を諦めているケースが多い
- 予約開始直後に枠が埋まってしまい、帰りの時間が決まらない買い物や通院での利用が難しい

(2) 運行の正確性と信頼性

【指摘事項】

- 予約した時間にバスが到着しない、または 20 分から 30 分の遅延が発生している
- 予約時間より早くバスが到着し、乗客がいないと判断されて置き去りにされたケースがある
- AI 判断による相乗りのため、ルートが遠回りになり、従来より大幅に時間がかかっている

(3) 広報・周知の改善

【指摘事項】

- ホームページやパンフレットが情報過多で、新規利用者にとって分かりにくい
- 新規利用者や免許返納者が毎年出現するため、一過性ではない継続的な周知活動が必要である

2 地域移動支援（ボランティア）と持続可能性

(1) 担い手の負担とリスク

【指摘事項】

- 現在、ボランティアの自家用車と保険に依存しており、事故発生時の補償が大きな不安要素となっている
- ボランティア精神に頼った現在の仕組みは不十分であり、実質的な報酬や補助がなければ活動の継続が困難である
- 社会福祉協議会への過度な依存を懸念する声があり、市としてのバックアップが必要である

(2) 具体的改善案

【住民提案】

- 各支所に専用の送迎車両（軽自動車等）を配置し、ボランティアの個人負担をなくすべき
- ふるさと納税に「移動支援」の枠を設ける、あるいは病院などの企業スポンサーを募って財源を確保すべき

3 公共交通全体および特定層のニーズ

(1) 学生・現役世代への配慮

【指摘事項】

- 中学生の部活動地域移行に伴う移動手段として、「のるーと」の活用を検討してほしい
- 遠方から通学する小中学生のために、補助金やスクールバスのような運用を望む声がある
- 年末年始も勤務がある現役世代にとって、全便運休は非常に不便である

(2) 鉄道（JR）との連携

【指摘事項】

- 広丘駅の利便性向上（照明改善、店舗誘致等）を望む
 - 北小野地区では JR 辰野線の維持が地域の生命線であり、減便への不安が極めて強い
-

4 市の予算配分と市民目線の行政運営

(1) 大型施設の維持管理費に関する指摘

【指摘事項】

- レザンホール、えんぱーく、ユメックスアリーナなどの維持・改修費が過大である
- 豪華な施設の改修を縮小し、その分を身近な道路整備、除雪、移動支援に回すべき
- 小坂田公園のプール跡地利用やサッカー場の稼働状況に疑問を感じており、予算が有効に使われているか懐疑的である

(2) 施設運用の改善

【指摘事項】

- core 塩尻などの公共施設が土日に休館であることは、働く世代の利用を妨げている
 - 5 年後、10 年後を見据え、負の遺産を残さないよう計画的に公共施設予算を縮小すべきである
-

主要な指摘事項の分析

「行政が言う『きめ細かなサービス』と住民の実感のズレ」

今回の報告会を通じて、以下の点が明らかになりました。

1 実装と運用のギャップ

「のるーと」は導入されましたが、予約システムの使いやすさ、運行の正確性・信頼性

において、住民の期待値に達していない状況が明らかになりました。特に、高齢者や非スマートフォンユーザーにとって、現在のシステムは利用の障壁となっています。

2 特定層への配慮不足

学生、現役世代、高齢者など、生活段階に応じた多様なニーズが十分に反映されていないことが指摘されました。公共交通は、すべての市民の日常生活を支える基盤であり、より包括的な対応が求められています。

3 予算配分の優先順位

大型施設の維持・改修に比べ、日常生活の移動手段確保に対する投資が相対的に不足しているという認識が、複数の地区で共有されています。限られた財源の中で、市民生活に直結する施策への重点配分が望まれています。

結び

本報告書で示した事項は、市民から直接出された、「生の声」です。

執行部の皆様におかれましては、本報告書の内容を真摯に受け止め、市民目線に立った施策の実現のための検討を強くお願いいたします。

また、今後の検討状況や対応方針について、議会への報告をお願いするとともに、継続的に市民との対話の場を設けていただくことを期待いたします。